

新たな創業に向けた事業展開を イワクラが100周年記念式典

イワクラグループが創業100周年を迎えた。6月18日、苫小牧市内のホテルで関係者や市民ら約800名を集めて「感謝の集い」を行った。

1913年（大正2年）岩倉組の創始者、岩倉善次氏が白老村（現白老町）で造材新炭業を創業したのが始まり。その後、木材の運送など様々な木材事業を拡大、1932年（昭和7年）に本店を苫小牧市に移転し、王子製紙の専属請負業者として発展していった。

同グループは、イワクラ（苫小牧市、後藤英夫社長）と、岩倉商事、岩倉建設、イワクラコーポレートホーム、岩倉化学工業、岩倉海陸運輸、岩倉建材、イワクラホームの7社でグループ企業を構成。丸太の生産、木材・木工品の製造、住宅用建築資材の製作、木質ペレットの製造・販売、建設用資材の販売、住宅の生産・販売など、木材関連を柱に幅広い事業展開を行っている。

同グループを代表してイワクラの後藤英夫社長は、「この100年は数々の苦難があり波乱万丈の一世紀であった。しかし、お客様、諸官公署、金融関係従業員、OBの皆様には多大なる支援をいただき乗り越えることが出来た。これからは『創業100年に感謝して、新たな創業へ挑戦』をスローガンに、木質バイオマスエネルギーの供給、木質ペレット供給の責任体制の確立、太陽光発電と再生可能エネルギーによる社会貢献などを進めていきたい」と挨拶した。

同氏は「木材資源を一切無駄なく使用し循環させることを『カスケード利用』というが、その言葉が使われる何十年も前からイワクラグループはそれを実践し、雇用も生んできた素晴らしい企業。日本の森林分野におけるバイオニアの同グループに、これから学んでいく企業はたくさん現れるはず」と語った。

講演会終了後には、ソプラノ歌手の下垣真希さんの記念演奏会も行われ、美しい歌声で来場者を楽しませた。



グループを代表して挨拶を述べた、イワクラ・後藤英夫社長